

○計画期間：平成 30 年 4 月～平成 35 年 3 月（5 年 0 月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成 30 年度終了時点（平成 31 年 3 月 31 日時点）の中心市街地の概況

本市は平成 30 年 3 月 23 日に 3 期目となる中心市街地活性化基本計画の認定を受け、平成 35 年 3 月までの 5 年間にわたり『県都にふさわしい中心市街地の魅力が伸展するまちづくり』～多様な「もの・ひと・しかけ」で人々を惹きつけるまち～をテーマとして掲げ、「①幅広い世代の人で賑わう魅力あるまちなか商業拠点の形成」「②多くの人々が行き交い、多様なサービスが受けられる空間の創出」「③新たな出会いや都市文化を育む個性の創出」の 3 つを基本的な方針に設定し、ソフト・ハード両面から各事業に取り組んでいるところである。

ソフト事業では、平成 30 年 10 月から 11 月までの 51 日間にわたり、第 33 回国民文化祭・おおいた 2018、第 18 回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会が大分県下で開催され、開・閉会式や県・市町村実行委員会等による 164 事業、関連事業 110 事業が実施され、県内外から 237 万人以上が来場した。本市中心市街地では、まちなかのアートを巡る「回遊劇場」や大分市中央通り歩行者天国など 88 事業が開催され、120 万人以上が来場し、賑わいが創出された。

また、ハード事業では、平成 31 年春に民間の大型商業施設「大分オーパ」が開業予定であり、夏には「（仮称）大分市中心市街地祝祭の広場」が完成予定であり、計画に掲げた事業を着実に進めているところである。

このような状況のなか、計画に掲げられた目標指数である府内町側と中央町側を往来する歩行者通行量は微増である状況を踏まえると、未だ人の流れが限定的で、中心市街地全体の回遊性の拡大に至っていないと考えられる。

平成 31 年秋には、「ラグビーワールドカップ 2019™」が開催され、国内外から多くの観戦客・観光客が中心市街地に訪れることが見込まれる。この機会を一過性のものとせず、継続した賑わいにつなげていくためにも、魅力ある大分市を PR するための受入環境の充実や、「（仮称）大分市中心市街地祝祭の広場」などを活用したイベントの開催など、行政、商店街、まちづくり関係者等が連携して取り組んでいくことが必要である。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度 12 月末日）

（中心市街地 区域）	平成 29 年度 （計画前年度）	平成 30 年度 （1 年目）	平成 31 年度 （2 年目）	平成 32 年度 （3 年目）	平成 33 年度 （4 年目）	平成 34 年度 （5 年目）
人口	20,281	20,752				
人口増減数	153	471				
自然増減数	—	—	—	—	—	—
社会増減数	—	—	—	—	—	—
転入者数	—	—	—	—	—	—

2. 平成 30 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成 30 年度は、「第 33 回国民文化祭・おおいた 2018、第 18 回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」が県下各地で開催され、延べ 230 万人が参加し、126 億円弱の経済効果を生むなど、本県の魅力を全国へ発信した。特に本市中心市街地では、まちなかのアートを巡る「回遊劇場」や「大分市中央通り歩行者天国」など多くの事業の実施により、大きな賑わいが創出された。こうした背景もあり、基本計画の 4 つの目標指標のうち、空き店舗率、中心市街地循環バス「大分きゃんバス」年間利用者数、主要文化交流施設年間利用者数の 3 つについては、基準値を上回っており、これまでの官民一体となった取組の成果が着実に現れている。

一方、中央町・府内町間を往来する歩行者通行量（土日計）については、唯一基準値を下回っているが、本年 6 月の食をテーマにした都市型商業施設「大分オーパ」、「(仮称) 大分市中心市街地祝祭の広場」の完成による新たな回遊導線の形成や交流人口の増加など、新たな賑わい創出が図られようとしており、さらなる活性化が期待されている。

本年秋には、ラグビーワールドカップが開催され、本市においても準々決勝戦 2 試合を含む計 5 試合が予定されている。大会期間中には、公式ファンゾーンや「(仮称) 大分市中心市街地祝祭の広場」でのローカルパブリックビューイング、各種イベントの実施による集客効果もあり、多くの外国人観戦者や国内観光客の来訪が見込まれるが、こうした大型イベントによる一時的な集客に終わることなく、日常的な賑わいを創出する事業を継続的に実施することが不可欠である。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
伝統と革新の調和によるまちなか商業の活性化	空き店舗率	11.1% (H28)	4.6% (H34)	9.8% (H30)	B	—	①
魅力的な都市空間の創出による回遊性の向上	中央町・府内町間を往来する歩行者通行量(土日計)	32,832人 (H28)	37,000人 (H34)	27,946人 (H30)	C	—	①
	中心市街地循環バス「大分きゃんバス」年間利用者数	60,931人 (H28)	65,000人 (H34)	61,747人 (H30)	B	—	①
多様な都市ストックを活かした交流機会の拡大	主要文化交流施設年間利用者数	3,902,363人 (H28)	4,180,000人 (H34)	3,933,873人 (H30)	B	—	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「空き店舗率」については、まちなか出店支援事業の申請手続きの見直しを行うなか、平成30年度は新たに13店舗が出店をしたところである。今後も出店支援を継続して行いながら、小規模事業者競争力強化支援事業により閉店抑止策を講じていくなど、各種取組を継続することにより、目標達成は可能であると見込まれる。

「中央町・府内町間を往来する歩行者通行量(土日計)」及び「中心市街地循環バス「きゃんバス」年間利用者数」については、平成29年度と比べそれぞれ658人、5,400人の増加となったが、目標値は下回った。しかし、主要事業である「旧大分フォーラスビル建替事業」及び「大分市中心市街地祝祭広場整備事業」は計画通り進捗しており、平成31年度に完成することにより、周辺の歩行者通行量の改善や、買い物客の利用者の増加

が期待されることから、目標達成は可能であると見込まれる。

「主要文化交流施設年間利用者数」については、平成30年秋に国民文化祭、障害者芸術・文化祭が開催されるなか、大分市中央通り歩行者天国や、OITAサイクルフェス!!!2018なども開催し、中心市街地に120万人以上が訪れた。平成31年秋には、「ラグビーワールドカップ2019™」が開催され、国内外から多くの観戦客・観光客が中心市街地に訪れることが見込まれる。この機会を一過性のものとせず、継続した賑わいにつなげていくためにも、魅力ある大分市をPRするための受入環境の充実や、「(仮称)大分市中心市街地祝祭の広場」などを活用したイベントの開催、主要文化交流施設における集客力のある企画展の開催などを通じ、本市の魅力を発信し、国内外からの観光客の来訪を図っていくことで、目標達成は可能と見込まれる。

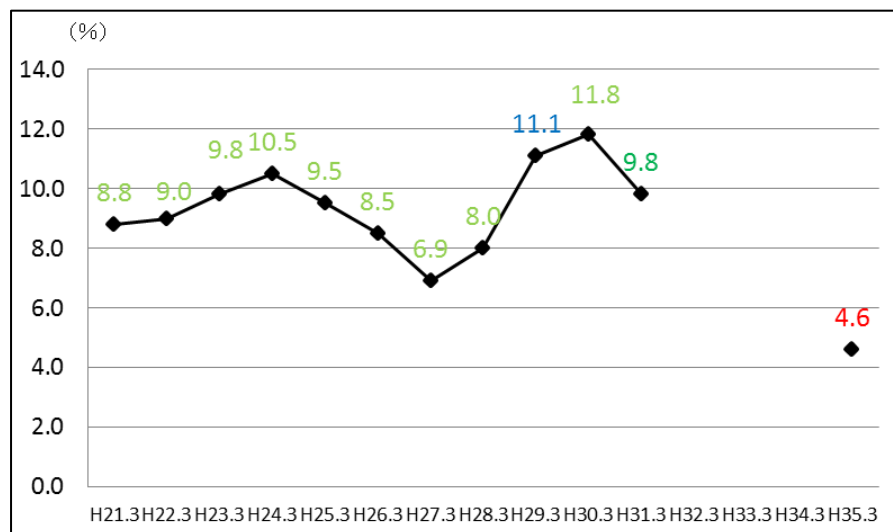
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

今回は本基本計画の初回フォローアップであることから、前回のフォローアップは実施していない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「空き店舗率」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 64～P. 66 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H28	11.1% (基準年値)
H29	11.8%
H30	9.8%
H31	
H32	
H33	
H34	4.6% (目標値)

※調査方法： 職員の目視による

※調査月： 毎年3月

※調査主体： 大分市

※調査対象： 中心市街地における5商店街組合区域内の建物1階部分

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 小規模事業者競争力強化支援事業（大分市）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	小規模事業者の地道な販路開拓や業務効率化の取組、販路開拓と業務効率化を一体的に行う取組に要する経費を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度は計画エリア内の個店について、29件の交付決定をし、個店が販促PRや店舗改装などの販路開拓につながる取組を行ったことにより、個店の魅力向上と競争力強化を図られ、閉店抑止につながった。
事業の今後について	引き続き、事業に取り組み、年間平均3件の空き店舗の抑制を見込む。

②. まちなか出店支援事業（大分市）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地で事業意欲のある商業者や企業者に対して、商店街等と連携を図りながら空き店舗への出店に関わる経費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～）
事業効果及び進捗状況	第 2 期基本計画期間中（平成 25 年 4 月～平成 30 年 3 月）の出店実績は 49 件、年平均では約 10 件であり、中心部商店街の空き店舗率の改善に大きな成果をあげている。 平成 30 年度は申請手続きの見直しを行い、より短期間に補助の交付決定を行えるようにしたことにより、13 件が新規出店を果たした。
事業の今後について	開店後のフォローアップ実施など、制度の拡充を行い、引き続き空き店舗への出店を促進していく。

③. まちなかりノベーション居住等物件魅力アップ事業（株）大分まちなか倶楽部

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	空き店舗増加の状況打開に向けたまちなかの店舗等の物件の魅力アップと、まちなか居住人口の増加に向け、老朽化した物件のリノベーションを推進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 30 年度に、株大分まちなか倶楽部、地元商業者、不動産業者等で組織する「中心市街地エリアマネジメント研究会」を設立し、定例学習会や先進地視察などを実施した。
事業の今後について	エリアマネジメント研究会の組織を拡充し、より具体的な検討を行う。

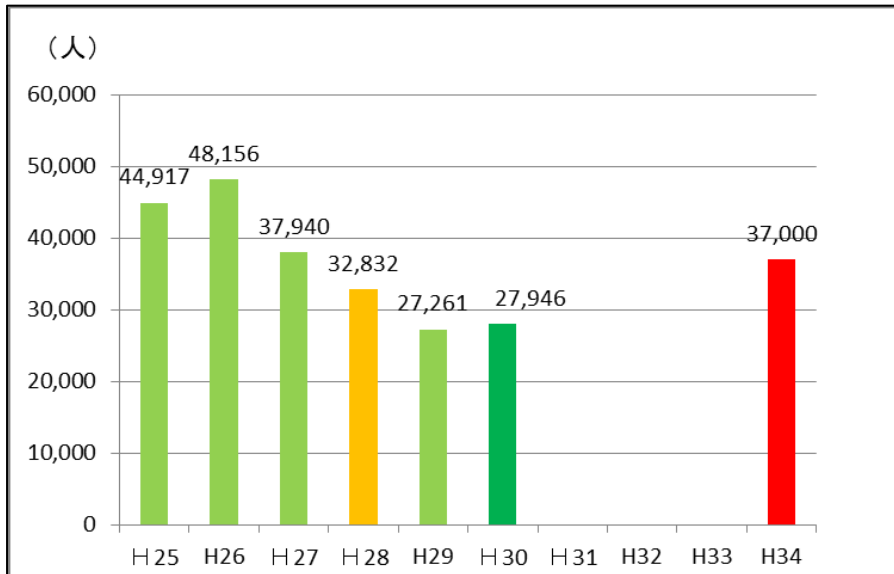
●目標達成の見通し及び今後の対策

まちなか出店支援事業の申請手続きの見直しを行い、より迅速に補助の交付決定をできるようにしたところ、平成 30 年度は 13 件が新規出店をした。今後も継続して出店支援を行いながら、閉店抑止策としての小規模事業者競争力強化支援事業の活用を促すなど開店後のフォローアップを行うことで、空き店舗率の改善を図る。

(2) 「中央町・府内町間を往来する歩行者通行量（土日計）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P.67～P.69 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H28	32,832 人 (基準年値)
H29	27,261 人
H30	27,946 人
H31	
H32	
H33	
H34	37,000 人 (目標値)

※調査方法：歩行者通行量調査

※調査月：毎年11月

※調査主体：大分市

※調査対象：大分市中心部5箇所にて定点調査を実施

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 旧大分フォーラスビル建替事業（大分中央ビル(株)、横萬ビル(株)）

事業実施期間	平成29年度～平成31年度【実施中】
事業概要	ビルの老朽化や耐震改修に伴い、旧大分フォーラスビルの建替えを実施し、平成31年春に大分オーパとして開業予定。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成29年3月末に解体工事を終了し、平成30年4月より、立替え工事に着工した。 平成31年春の開業を予定し、現在整備中である。
事業の今後について	引き続き、開業に向けて準備を進めていく。

②. 大分市中央通り歩行者天国（大分市中央通り歩行者天国推進委員会）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	本市のメインストリートである中央通りを歩行者天国とし、魅力あるイベント等を展開することにより、回遊性の向上や滞留時間の延長を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成28年～30年度）
事業効果及び進捗状況	平成30年度は、4月・9月・11月の3度開催し、平均30,000人が来場した。歩行者天国にあわせて、各商店街がイベントを実施することで、中央通り沿い以外でも歩行者通行量の増加がみられており、中央通りからまちなか全体への回遊性が生まれている。
事業の今後について	商店街等と連携し、歩行者天国にあわせて連携イベントを実施すること等を働きかけながら、さらに街全体に回遊する取組を進める。また、平成31年夏には、中央通りに面した「（仮称）大分市中心市街地祝祭の広場」が完成予定のため、「（仮称）大分市中心市街地祝祭の広場」を活用できるよう関係機関と調整を図る。

③. 大分市中心市街地祝祭広場整備事業（大分市）

事業実施期間	平成29年度～平成31年度【実施中】
事業概要	大分駅北側に位置する旧大分パルコ跡地を「（仮称）大分市中心市街地祝祭の広場」として整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（大分市中心市街地地区））（国土交通省）（平成30年～31年度）
事業効果及び進捗状況	平成30年度は基本計画策定並びに詳細設計の実施、工事を発注し、現在整備中である。
事業の今後について	引き続き、整備を進めていく。平成31年夏に「（仮称）大分市中心市街地祝祭の広場」が完成予定。

●目標達成の見通し及び今後の対策

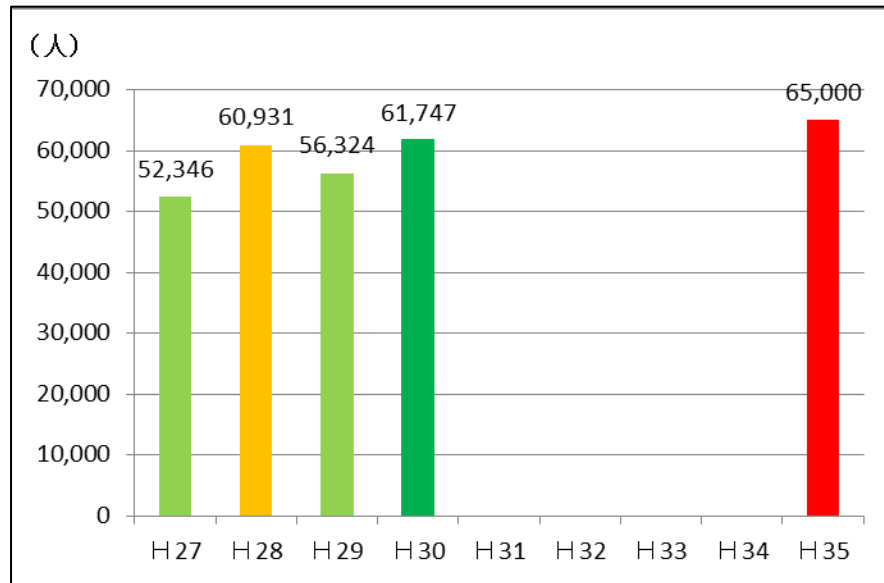
中央町・府内町間を往来する歩行者通行量は、平成29年度と比べ658人の増加となったものの、基準値未達成となった。しかし、主要事業である旧大分フォーラスビルの建替工事は概ね予定通りに進んでおり、平成31年春には大分オーパという名称で開店を控えている。今後、大分オーパ開業後には、大分オーパを起点に各方面への回遊性が生まれると考えられ、目標達成は可能だと見込まれる。

また、平成31年夏には、中央通りに面した「（仮称）大分市中心市街地祝祭の広場」の完成を控えており、大分市中央通り歩行者天国をはじめ、様々なイベントを「（仮称）大分市中心市街地祝祭の広場」で実施することにより、まちなかの回遊性の向上に取り組んでいく。

(3) 「中心市街地循環バス「大分きゃんバス」年間利用者数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 72～P. 74 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H28	60,931 人 (基準年値)
H29	56,324 人
H30	61,747 人
H31	
H32	
H33	
H34	65,000 人 (目標値)

※調査方法： 月ごとの利用者数を集計

※調査月： 4月～翌3月

※調査主体： 大分市

※調査対象： 中心市街地循環バス「大分きゃんバス」

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地循環バス運行事業（大分市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	大分駅からまちなかを通り、市美術館や大分県立美術館、商店街などを経由する循環バス「大分きゃんバス」を運行する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～）
事業効果及び進捗状況	平成27年6月から実証運行を始め、運行便数やルートを見直しながら、平成29年10月から本格運行に移行した。 平成30年3月に車両デザインを変更するとともに、車両のバリアフリー化を行った。平成30年度の利用者数は61,747人となり、平成29年度に比べ利用者が約5,400人増加し、まちなかの回遊性の向上に寄与した。
事業の今後について	まちなかの商店街や美術館等との連携を強化し、利用者数の増加に取り組む。

②. 旧大分フォーラスビル建替事業（大分中央ビル(株)、横萬ビル(株)）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	ビルの老朽化や耐震改修に伴い、旧大分フォーラスビルの建替えを実施し、平成 31 年春に大分オーパとして開業予定。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 3 月末に解体工事を終了し、平成 30 年 4 月より、立替え工事に着工した。 平成 31 年春の開業を予定し、現在整備中である。
事業の今後について	引き続き、開業に向けて準備を進めていく。

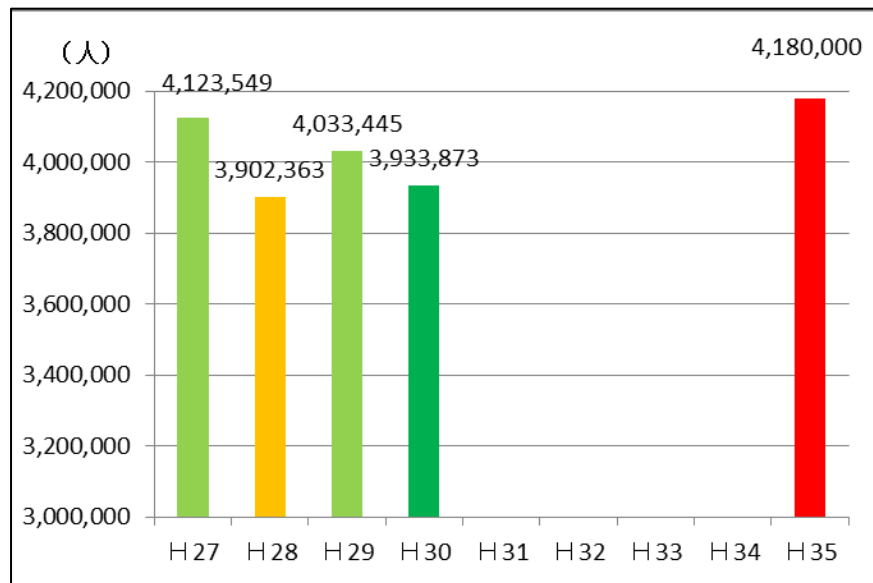
●目標達成の見通し及び今後の対策

平成 30 年度の中心市街地循環バス「大分きゃんバス」の年間利用者数は、61,747 人となり、平成 29 年度に比べ 5,400 人ほど増加している。平成 31 年春には大分オーパの開店を控えており、大分オーパ利用客によるバス利用者の増加が期待されることから、目標達成は可能だと見込まれる。一日乗車券提示による、まちなかの店舗等での特典サービスの実施などまちなかの商店街・個店との連携に取り組んでいるが、より連携を強化し、利用者の増加に取り組む。

(4) 「主要文化交流施設年間利用者数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 75～P. 78 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H28	3,902,363 人 (基準年値)
H29	4,033,445 人
H30	3,933,873 人
H31	
H32	
H33	
H34	4,180,000 人 (目標値)

※調査方法：施設ごとの利用者数を集計

※調査月：毎年4月～翌3月

※調査主体：大分市

※調査対象：J：COM ホルトホール大分、コンパルホール、アートプラザ、
大分県立美術館、大分市美術館

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭

(第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会)

大分市中央通り歩行者天国 (大分市中央通り歩行者天国推進委員会)

おおいたワールドフェスタ (大分市)

OITAサイクルフェスティバル開催事業

(OITAサイクルフェス実行委員会、大分市)

まちなかアートフルロード推進事業 (大分市)

事業実施期間	<ul style="list-style-type: none"> 国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭 平成30年度【済】 大分市中央通り歩行者天国 平成28年度～【実施中】 おおいたワールドフェスタ 平成27年度～【実施中】 OITAサイクルフェスティバル開催事業 平成26年度～【実施中】 まちなかアートフルロード推進事業 平成26年度～【実施中】
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭

	<p>大分県民総参加のお祭りとして誰もが参加できる大会の実現、また、今後の大分の文化芸術のさらなる発展につながる大会を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分市中央通り歩行者天国 <p>本市メインストリートである中央通りを歩行者天国とし、魅力あるイベント等を展開することにより、回遊性の向上や滞留時間の延長を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおいたワールドフェスタ <p>国際関係団体や留学生による国際交流プログラムを実施し、中心市街地の賑わい創出を図るとともに、世界の文化や習慣に触れていただく機会とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OITAサイクルフェスティバル開催事業 <p>大分いこいの道周辺道路や大分スポーツ公園周辺道路を活用した自転車競技大会（UIC：国際自転車競技連合公認レース）を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかアートフルロード推進事業 <p>中心市街地から市美術館までのエリアにおけるアート作品を楽しむ機会を提供し、回遊性を創出する。</p>
<p>国の支援措置名及び支援期間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭 国の支援措置なし ・大分市中央通り歩行者天国 地方創生推進交付金（内閣府）（平成28年～30年度） ・おおいたワールドフェスタ 国の支援措置なし ・OITAサイクルフェスティバル開催事業 国の支援措置なし 〔認定基本計画：地方創生推進交付金（内閣府）平成30～32年度〕 ・まちなかアートフルロード推進事業 国の支援措置なし
<p>事業効果及び進捗状況</p>	<p>国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭が平成30年10月から11月までの51日間にわたって開催され、県下で実施された開・閉会式や県・市町村実行委員会等による164事業、関連事業110事業に237万人以上が参加。そのうち中心市街地では88事業が開催され、120万人以上が来場し、賑わいが創出された。本市や本市実行委員会の主催により調査対象文化交流施設において開催した13事業には、約2万6千人を超える来場者が集まり、施設の利用者増に寄与している。</p> <p>また、期間中には、中央通り歩行者天国（来場者:32,000人）や、おおいたワールドフェスタ（来場者:2,400人）などを実施し、</p>

	来場者に本市の魅力を発信し、再来訪を促した。
事業の今後について	大分市中央通り歩行者天国、おおいたワールドフェスタ、OIT Aサイクルフェスティバル開催事業、まちなかアートフルロード推進事業は継続して実施し、中心市街地の賑わいを創出するとともに、来街者の再来訪を促す。

②. 国際スポーツ誘致推進事業、大分市中心市街地祝祭広場整備事業（ともに大分市）

事業実施期間	<ul style="list-style-type: none"> 国際スポーツ誘致推進事業 平成27年度～【実施中】 大分市中心市街地祝祭広場整備事業 平成29年度～平成31年度【実施中】
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 国際スポーツ誘致推進事業 ラグビーワールドカップ2019日本大会及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、外国人観光客受入環境の整備、参加国・地域等のキャンプの誘致を行う。 大分市中心市街地祝祭広場整備事業 大分駅北側に位置する旧大分パルコ跡地を「(仮称)大分市中心市街地祝祭の広場」として整備する。
国の支援措置名及び支援期間	<ul style="list-style-type: none"> 国際スポーツ誘致推進事業 国の支援措置なし 大分市中心市街地祝祭広場整備事業 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（大分市中心市街地地区））（国土交通省）（平成30年～31年度）
事業効果及び進捗状況	大分市ラグビーワールドカップ2019支援事業実行委員会やラグビーワールドカップ市民ボランティアの研修の開催、大会期間中のおもてなしや賑わい創出のため、中心市街地でのイベントなどの開催に向け関係機関の調整を行うなど、平成31年度の開催に向けて準備を進めている。
事業の今後について	平成31年度は「ラグビーワールドカップ2019™」が開催され、本市にて5試合が予定されている。大会期間中には、「(仮称)大分市中心市街地祝祭の広場」にてイベントを開催予定であり、観戦者などの中心市街地への来訪を見込む。

③. 大分市M I C E開催促進事業（大分市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	市内で開催されるM I C E主催者に対して、予算の範囲内で補助金を交付することなどにより、M I C Eの開催を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度は、3件交付決定し、市内宿泊施設での宿泊人数は延べ195人となるなど、本市への交流人口の増加に寄与した。 平成28年度以降、交付決定件数は増加しており、取組の効果がでてきている。
事業の今後について	平成31年度は、9件が交付申請する予定であり、本市への交流人口の増が見込まれる。

④. 自治体情報発信拠点づくり促進事業、大分市中心市街地プロモーション事業、広域公共施設相互利用促進事業（すべて大分市）

事業実施期間	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体情報発信拠点づくり促進事業 平成29年度～【実施中】 ・大分市中心市街地プロモーション事業 平成28年度～【実施中】 ・広域公共施設相互利用促進事業 平成28年度～【実施中】
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体情報発信拠点づくり促進事業 希望する県内自治体の方が中心市街地において特産品や農林水産物の販売、観光・イベント等のPRができる自治体情報発信拠点の設置等を行う。 ・大分市中心市街地プロモーション事業 中心市街地のPR映像や各種メディア等により、その魅力を市内外問わず、より広域に発信することで中心市街地におけるイベント等の実施を促進する。 ・広域公共施設相互利用促進事業 大分都市広域圏内のスポーツ・文化施設等が相互利用できるよう、新たな公共施設案内・予約システムを導入することにより、市施設の稼働率向上はもとより、交流人口の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体情報発信拠点づくり促進事業 ・大分市中心市街地プロモーション事業 ・広域公共施設相互利用促進事業 <p>3事業とも国の支援措置なし</p>
事業効果及び進捗状況	中心市街地プロモーション事業での呼びかけにより、14自治体が中心市街地で行われるイベントに参加した。また、自治体情報発信拠点の利用については、平成30年度は1自治体が常設、5自治

	<p>体が一時設置し、平成 29 年度に比べ、4 自治体が多く利用した。また、情報発信拠点への年間来訪者数は 16,203 人となり、中心市街地の賑わい創出に寄与している。</p>
事業の今後について	<p>引き続き、県内自治体に情報発信拠点の設置等呼びかけ、交流人口の増加を図り、交流施設の利用者増につなげる。</p>
<p>⑤. 国際スポーツ誘致推進事業（大分市）、 大分市中心市街地祝祭広場整備事業（大分市） O I T A サイクルフェスティバル開催事業（O I T A サイクルフェス実行委員会、大分市）、 大分市無料公衆無線 LAN サービス事業（大分市） 大分市中心部一括免税カウンター運営事業（大分市中心部商店街振興組合連合会）、 大分市免税店 P R 支援事業（大分市）</p>	
事業実施期間	<ul style="list-style-type: none"> ・国際スポーツ誘致推進事業 平成 27 年度～【実施中】 ・大分市中心市街地祝祭広場整備事業 平成 29 年度～平成 31 年度【実施中】 ・O I T A サイクルフェスティバル開催事業 平成 26 年度～【実施中】 ・大分市無料公衆無線 LAN サービス事業 平成 26 年度～【実施中】 ・大分市中心部一括免税カウンター運営事業 平成 28 年度～【実施中】 ・大分市免税店 P R 支援事業 平成 28 年度～【実施中】
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・国際スポーツ誘致推進事業 ラグビーワールドカップ 2019 日本大会及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、外国人観光客受入環境の整備、参加国・地域等のキャンプの誘致を行う。 ・大分市中心市街地祝祭広場整備事業 大分駅北側に位置する旧大分パルコ跡地を「(仮称) 大分市中心市街地祝祭の広場」として整備する。 ・O I T A サイクルフェスティバル開催事業 おおいたいこいの道周辺道路や大分スポーツ公園周辺道路を活用した自転車競技大会（UIC：国際自転車競技連合公認レース）を開催する。 ・大分市無料公衆無線 LAN サービス事業 無料の公衆無線 LAN サービスを提供し、インターネットが利用できる環境を整備することで、快適な滞在をサポートするとともに、利用者が SNS 等で本市の魅力を発信することでさらなる誘客に

	<p>もつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分市中心部一括免税カウンター運営事業 <p>インバウンドへの消費拡大を促進するため、大分市中心部の商店街振興組合と㈱トキハ本店が協力して「大分市中心部一括免税店カウンター」を設置・運営する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分市免税店PR支援事業 <p>スマートフォンなどで免税店が気軽に検索できる免税店PRサイトを運営する。</p>
<p>国の支援措置名及び支援期間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際スポーツ誘致推進事業 <p>国の支援措置なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分市中心市街地祝祭広場整備事業 <p>社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（大分市中心市街地地区））（国土交通省）（平成30年～31年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OITAサイクルフェスティバル開催事業 <p>国の支援措置なし</p> <p>[認定基本計画：地方創生推進交付金（内閣府）平成30～32年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分市無料公衆無線LANサービス事業 <p>国の支援措置なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分市中心部一括免税カウンター運営事業 <p>国の支援措置なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分市免税店PR支援事業 <p>国の支援措置なし</p>
<p>事業効果及び進捗状況</p>	<p>大分市ラグビーワールドカップ2019支援事業実行委員会やラグビーワールドカップ市民ボランティアの研修の開催、大会期間中のおもてなしや賑わい創出のため、中心市街地でのイベントなどの開催に向け関係機関の調整を行うなど、平成31年度の開催に向けて準備を進めている。</p> <p>OITAサイクルフェス!!!2018は平成30年10月に開催され、海外6チームが参戦し、2日間で67,883人の来場者が訪れた。</p>
<p>事業の今後について</p>	<p>平成31年度は、「ラグビーワールドカップ2019™」、OITAサイクルフェスティバルを開催予定。引き続き、外国人観光客への受入環境の整備を進め、主要文化交流施設への来訪を促す。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

「主要文化交流施設年間利用者数」については、平成 30 年度の年間利用者数 3,933,973 人となり、基準年（平成 28 年）と比べ、32,000 人の増加となった。平成 30 年度は、国民文化祭、障害者芸術・文化祭が開催され、期間中には大分市中央通り歩行者天国などを行うなど、来場者の本市への再来訪に向け、本市の魅力をPRし、取組は順調に進捗した。

一方、平成 29 年度との比較では、99,000 人の減少となったが、その要因としては、平成 29 年度は、美術関連施設にて全国的に人気があり、集客力のある特別展などが開催されたことにより、計画策定時の想定を上回る利用者数が来場したことが考えられる。

今後、平成 31 年度は、「ラグビーワールドカップ2019™」の開催を控えており、受入体制の整備等の取組は概ね順調に進捗している。「ラグビーワールドカップ2019™」の開催により、本市へ約 48,000 人の海外からの観戦者を見込んでおり、美術関連の施設で大会期間中に日本文化をテーマにした企画を予定しており、大会を機に来街する外国人観光客の利用を見込んでいる。

併せて、大会期間中に「(仮称)大分市中心市街地祝祭の広場」などの中心市街地の会場でイベントを行いながら、本市の魅力を発信し、国内外からの観光客の来訪を図っていくことで、目標達成は可能と見込まれる。